

おおさか

第53号

大阪防衛施設局
総務部広報官編集

〒540-0008

大阪府中央区大手前4丁目1-67

電話 06-6945-4953



姫路城

播磨の拠点都市兵庫県姫路市、JR姫路駅の北約1kmのところにある姫路城。

空に向かって立ち並ぶ天守閣と美しい漆喰の白壁の広がり、白鷺が天空を飛んでいるように見えることから、別名白鷺城とも言われています。

姫路城は、法隆寺とともに1993年日本で初の世界遺産に指定されました。関ヶ原の戦いの翌年から池田輝政により建てられたもので、8年の歳月を費やし、羽柴秀吉が建てたそれまでの3層の天守閣を取り壊し、5層7階となりました。姫路市は空襲を受けましたが、姫路城は幸運にも400年の歴史の中で戦にまみえることもなく、また、近代の戦災に遭うこともありませんでした。その結果、保存状態が良く、不戦・不焼の類い稀な城として貴重な文化遺産となっています。要塞としての機能は、螺旋を描く堀など防御線が複雑・巧妙に構成されており、名城と呼ばれる理由です。

その雄大な姿は、日本の四季いずれの時期においても美しいが、特に、春はさくら名所100選にも選ばれるほどで、この時期にはたくさんの人出でにぎわいます。

姫路城に纏わる物語としては播州皿屋敷お菊の井戸、宮本武蔵の妖怪退治などがあり、物語の舞台としての魅力もあります。

軍事的にも、芸術的にも、建築技術の粋を極め完成された国宝の天守閣、渡櫓（やぐら）、重要文化財の化粧櫓、備前門などに是非触れられることをお勧めします。

管内の防衛施設紹介

今回は、第2回目として、京都府舞鶴市に所在する海上自衛隊舞鶴基地について、2005年後半の舞鶴基地と地元との交流行事を写真を添付して紹介します。

堂々と「御城下大行列」

「田辺城まつり」は、戦国武将細川幽斉が築いた田辺城（別称：舞鶴城）の城門の復元がきっかけで1992年から催されているもので、市内はもちろん県外各地からも多数の見物者が訪れ、にぎやかに行われています。昨年は5月22日（日）に行われました。



まつりのメインイベントである

「御城下大行列」では、京都府警平安騎馬隊を先頭に、ちびっこ武者等約700名が市内を練り歩きました。特に、舞鶴教育隊からの参加者（曹候補生等）は、学生の代表が行列の大將に扮し、鉄砲隊、弁慶、鎧武者等を従え威風堂々と行進し、観衆から大きな拍手で迎えられました。

「舞鶴田辺城まつり」は、地元の要請を受けて、舞鶴海曹会が中心となり、毎年各部隊が参加しているもので、地域との交流を通じて海上自衛隊に対する理解の促進に多大な成果を収めるとともに、参加した学生等も地域の歴史と文化に触れ、舞鶴に対する親しみを深めています。

砕氷艦「しらせ」舞鶴に入港

南極地域観測協力を行う砕氷艦「しらせ」が、平成17年9月16日、（金）舞鶴西港第4埠頭に平成12年以来5年ぶりに入港しました。

砕氷艦「しらせ」は、部外来賓、自衛隊協力会及び隊員らが出迎えるなか、午前10時過ぎ「We Love 舞鶴」という横断幕を掲げ、その大きく美しいオレンジ色の船体を埠頭に接岸させました。続いて、入港行事が行われ、舞鶴市長から「ようこそ舞鶴へお越しくださいました。心から歓迎申し上げます。」と歓迎の言葉があり、市民の方々からも手



厚い歓迎を受けました。午後からは、一般公開が行われ、16日、18日の3日間で約9700名の見学者が来艦しました。見学者は、砕氷艦「しらせ」の艦内見学とともに、南極の水や隕石、海洋生物の標本を見学しました。埠頭においては、音楽隊が演奏を行い、雰囲気大いに盛り上げ、「しらせ」の一般公開に花を添えました。

このたびの一般公開を通して、海上自衛隊が南極観測支援に従事していることを再認識していただくとともに、地球環境の問題についても関心を高めていただく良い機会になったことと思います。

舞鶴地方隊、昨年も「ちゃった祭り」を支援

「ちゃった祭り」を支援

舞鶴地方隊は、平成17年7月30日（土）及び7月31日（日）の両日行われた「第30回みなとちゃった祭り」の支援を行いました。

30日の前夜祭には、総監、幕僚長をはじめとする舞鶴地方総監部等の隊員約100名が参加し、「舞鶴音頭」に合わせて「手作り御輿」と「民謡流しの競演」が行われ、西舞鶴地区のマナイ、平野屋商店街を会場に盛大に踊りました。

舞鶴地方隊は、今年は惜しくも両部門とも最優秀賞は逃したものの、「手作り御輿」の部門では優秀賞を受賞しました。



首長さんには 聞きました

京都府

舞鶴市長

江守光起氏

今回は、平成7年に市長に就任されて以来、3期11年にわたり舞鶴市政を担当されている江守光起市長に登場願ひ、今後の市政に対する抱負等についてお聞きしました。

舞鶴市の紹介

○ 海と共に歩む舞鶴市の歴史

舞鶴市は、京阪神地区から100km圏の日本海に面した位置にあり、本州のほぼ中央部、日本海がもつとも深く湾入したところにあります。その海岸線一帯は、入江と岬が美しく交錯するリアス式海岸として若狭湾国定公園に指定されています。

この若狭湾に湾口を開く「舞鶴湾」には、波静かな「天然の良港」として知られ、近畿地方の日本海側で唯一の重要港湾「京都舞鶴湾」があります。

本市は、明治時代から軍港都として発展した東地区（旧東舞鶴市）と、

城下町・商都として栄えた現在の西地区（旧舞鶴市）が昭和18年に合併してできた複眼都市です。

それぞれの市街地は、港に接しており、西地区に隣接する西港は、対岸貿易を中心とした商港として発展し、また、東港は、旧海軍鎮守府が設置された明治34年（1901）から海軍の基地として、また、戦後は引揚港として13年間にわたり旧ソ連や中国から引揚げた66万人以上の同胞を迎え入れる引揚港の歴史を歩みました。昭和63年に完成した「引揚記念館」には、「岸壁の母」をはじめ、引揚げ当時の様子を伝える貴重な品々が展示されています。

このような歴史をもつ京都舞鶴港は、現在国際貿易港としてロシア、韓国、中国等との貿易が盛んに行われ、また、大型船が接岸可能な和田埠頭等の整備も進められているとこ

ろです。

○ 市民と協働で進めるまちづくり
平成7年市長に就任して以来、多くの市民の皆様と対話を続け、市民と行政の協働により共に知恵を出し、共に汗しながら、まちづくりを進めてきました。

現在、市内には、120を超える赤れんが建造物が残されていますが、特に、市役所や自衛隊の棧橋周辺には12棟の赤れんが倉庫が現存しており、これら倉庫群は明治や大正の空気を今に伝える重要な歴史文化資産であることから、市民と行政が協力・連携しながら近年「赤れんがを活かしたまちづくり」に力を入れていきます。

具体的には、赤れんが建造物のライトアップ、シンボジウムの開催などから始まり、平成5年には「赤れんが博物館」が完成。同6年には現市役所横の赤れんがの旧市庁舎を「市政記念館」として整備・公開しています。

さらには、民間所有の赤れんが倉庫1棟を譲り受け、「（仮称）まいづる智慧蔵（ちえぐら）」として、

国の重要文化財指定を目指した保存整備を進めています。今後は、約5300年前の我が国最古・最大級の縄文丸木舟をはじめとする地域の歴史文化資産の展示を行うとともに、市民が集うまちづくりの拠点施設として活用していきたいと考えています。

また、本市では、これまでから歴史と文化を活かしたまちづくりを進めてきたところですが、とりわけ西地区には、由緒ある神社仏閣をはじめ、戦国時代の智将細川幽斎公が築城した田辺城を中心とする城下町、廻船業を中心に栄えた高野川沿いの古い町並み、また、町衆の芸屋台など多くの歴史文化資産が残っており、市民や大学と共にこれらを活用したまちの魅力づくりに取り組んでいるところです。



― 市政に対する今後の抱負 ―

我が国は人口減少時代に入ったところですが、本市としては、今後とも持続的に発展できるよう、関係機関をはじめ、市民の皆様と連携し、定住人口の増加やまちの活力に繋がる「働く場の創出」、「まちの魅力づくり」に努めていきたいと考えています。

このような中、本市は、大学が有する知的資源を活用し、将来にわたって持続可能な地域づくりを行うため、「京都・まいづる立命館地域創造機構」（略称：MIREC）を設立しました。

このMIRECは全国に例を見ない「地域発」の「地学連携」組織として、地域産業の振興や北東アジア地域との経済交流を通じて、様々な調査や事業に取り組んでいます。活動の中で具体的な商談も成立しており、今後さらに取り組みを充実していきます。

また、平成18年度には、民間から迎えました「産業振興コーディネート」や中国とのビジネスマッチングを強化するため「大連現

地特使」を設けたところであり、一層、地域経済の活性化を図っていきたいと考えています。

― 舞鶴市と基地との関わり ―

海上自衛隊舞鶴地方隊は、日本海沿岸の防衛及び警備を行い、不審船への対応や、テロ特措法に基づく護衛艦・補給艦の派遣、災害派遣等の任務を遂行されています。

特に、平成16年10月に本市を襲った台風23号の際には、由良川の氾濫により孤立したバスの乗客の救助活動をはじめ、多くの人命の救助に懸命のご尽力をいただきました。心から感謝申し上げているところです。

現在、本市における海上自衛隊の隊員数は、在籍部隊も含め約3500名であり、人口減少時代を迎えた中で、多くの隊員やそのご家族に居住いただき、地域で様々な活動にこ参画いただくことは、市としても大変心強くありがたいことであります。

また、防衛関連の交付金や助成金をいただき、最近では、道路整備や消防ポンプ自動車、高規格救急自動車の配備などを行いました。

今後とも最終処分場や上水道配

水池の新設など市民生活に直結した施設整備を予定しています。

海上自衛隊とは、これからも緊密な連携のもと、良好な共存関係をさらに維持してまいりますので、市政の推進になお一層のご協力をお願いしたいと考えております。

プロフィール

1944（昭和19）年生まれ
東舞鶴高校を経て、大阪経済大学を卒業

1978（昭和53）年舞鶴市議会議員、1983（昭和58）年京都府議会議員に当選

1995（平成7）年舞鶴市長に就任し、現在3期目



事務所だより

「兼六園・梅林」

金沢防衛施設事務所

兼六園の梅林が今年も3月に見頃を迎えました。

兼六園は、水戸の借楽園、岡山の後楽園とともに日本の3名園の一つとしてその名を知られており、昭和60年には国の特別名勝に指定されました。その雄大な庭園美は、江戸時代の「林泉廻遊式庭園」の特徴を残すものであり、加賀藩5代藩主前田綱紀から13代藩主斉泰までの約200年をかけて完成しました。

兼六園の名は、中国、宋の時代の詩人、李格非が書いた洛陽名園記に由来し、「宏大・幽邃・人力・蒼古・水泉・眺望の六勝を兼ね備えた庭」の意味で、奥州白川藩主松平定信によって命名されました。

園内には、琴の糸を支える琴柱に似ているところから名前がついた「微軫灯籠」（ことじとうろう）、松の名所、琵琶湖畔の唐崎から種子を取寄せて育てた「唐崎松」、自然の水圧を利用した日本最古と言われている「噴水」等見所が多く、また、園内の数多くの樹木は四季折々の移ろいと風情を醸し出しています。

梅林は、昭和43年、明治百年記念事業として、京都の北野天満宮、福岡の太宰府や東京の湯島天神、水戸

の借楽園等の協力により全国の名梅を集めて造成されたものを、その後平成12年「平成の大作庭」を経て趣のある庭として大幅に改修されました。



梅林には、「白加賀」「八重寒紅」など約20種類、200本の梅が植えられており、それぞれの木には品種が分かるように名札がかかっています。冬の寒さや雪に耐えて見頃を迎えた梅のふくよかな香りは、訪れる人々に春の訪れを感じさせてくれます。

この後、園内は桜が4月上旬から見頃を迎え、金沢は春の盛りを迎えます。

「葵祭」

京都防衛施設事務所

葵祭は、祇園祭、時代祭とともに京都三大祭として知られるところであり、毎年5月15日に行われています。

葵祭は、今から約1400年前の欽明天皇（540～571年）の時代に、国内は凶作に見舞われ、五穀が実らなかったため、当時、賀茂の大神の崇敬者であった、ト部伊吉若日子（うらべのいきわかひこ）に占わせたところ、賀茂の神々の祟りであることがわかり、若日子は、勅命を仰せつかって、この祟りを鎮めるため、4月の吉日に祭礼を行ったのが始まりとされています。この祭礼



は、馬に鈴をかけ、人は猪頭（いのがしら）をかぶって駆競べ（かけくらべ）をしたもので、これにより祟りはおさまり、五穀豊穡となったそうです。

この祭りは、古くは賀茂祭り、または北の祭りとも言われていましたが、葵祭と呼ばれるようになったのは江戸時代の「元禄7年」に祭りが再興された後からで、当時の内裏宸殿（だいりしんでん）の御簾（みす）をはじめ、牛車（御所車）、勅使（ちよくし）、供養者の衣冠（いかん）、牛馬に至るまで、すべて葵の葉と桂の小枝で飾ったことからこの名がきています。

現在の祭儀は、路頭の儀と社頭の儀という儀式が実施されており、路

頭の儀は、王朝絵巻を彷彿させる平安朝の優雅な行列で、勅使をはじめ検非違使（けびいし）、内蔵使（くらづかい）、山城使（やましろづかい）、牛車（ぎしや）、風流傘（ふうりゅうがさ）、あでや

かな十二単（ひとえ）をまとった腰輿（おおよ）に乗った斎王代（さいおうだい）などからなり、一番の見所といえます。行列は京都御所を出発し、遠く東山や北山の峰々を羨望しながら、下鴨神社さらに上賀茂神社へと向かい、その後、再び京都御所へ戻って来るといいます。

また、社頭の儀は、行列が下鴨神社、上賀茂神社の両社に到着した際、それぞれの社頭で行われる儀式で、勅使が御祭文を奏上し、御幣物（こへいびつ）を奉納し、さらに、平安朝を偲ばせる雅の雲間気の中で、人馬の引き回し、舞人（まいうど）による華麗な「東海（あずまあそび）」舞が奉納されます。

「ヨロイヤアサー」の掛け声とともに春の到来を告げる古都の風物詩、京都三大祭のトップを飾る葵祭が今年も京都市内で平安装束をまとった行列が、さわやかな新緑の都大路を巡行する日も間近です。



お疲れ様でした

3月31日付で総務部会計課藤田修技官及び持田佳枝技官の二人が退職されました。

今後ともご壮健でますますご活躍されますよう、職員一同心から祈念しております。



豊庭野演習場で

日米共同実動訓練実施

2月19日から3月3日までの13日間、滋賀県の豊庭野演習場において、陸上自衛隊と米海兵隊による日米共同実動訓練が実施されました。

この訓練は、陸上自衛隊は第13旅団第8普通科連隊を基幹とする約350名、米海兵隊は第3海兵機動展開部隊を基幹とする約250名が参加し実施されたもので、中部方面隊としては平成15年10月以来8回目となります。



当局は、本訓練の実施に当たり、関係自治体等と連絡調整を行い、地元からの安全対策等の要望事項について部隊と十分な調整を行い、円滑な訓練実施を図るとともに、現地に連絡調整事務所を設置し、24時間体制で情報の収集、連絡調整に当たり、万一の事件・事故等不測の事態に対応しました。

防衛施設地方審議会開催

3月10日、平成17年度大阪防衛施設地方審議会が「KKRホテル大阪」で開催されました。

会議には、委員10名のうち8名が出席され、当局からは局長、名古屋支局長をはじめ関係者が出席しました。会議では会長に徳山喜昭委員を選出した後、局長、会長が挨拶し、施設部長から「在日米軍の兵力構成見直し」及び「豊庭野演習場における市街地訓練場の整備」について業務報告が行われ、各委員は熱心に耳を傾けられていました。

午後から、八尾駐屯地に移動し、信太山演習場等を上空から視察し、全日程を終了しました。

事業部からの業務紹介

★施設発生物品の売払業務

事業部業務課

「施設発生物品」とひと言で言ってもピンとこない方が多いかも知れません。

そもそも「施設発生物品」とは、自衛隊等の施設内等での建設工事の過程で産出される鉄くず、非鉄金属くず（アルミ・銅・青銅など）、施設周辺に植林している立木類を指します。

かつては当局管内にも米軍管理施設があったので、「返還物品の売払」もあったのですが、六甲通信所（神戸市）の返還（平成4年）を最後に当局管内からこれら施設も皆無となり、現在は自衛隊の施設発生物品の売払だけになっています。



施設発生物品の撤去作業中



撤去完了後の保管場所

業務は、その物品が売払に適しているか否かの判定で始まります。樹脂製パイプ、コンクリートの付着した金属、有害物質を含んだ機械類など、スクラップ業者が買受できない物品の除外は、原則、建設工事の過程で建設部各課の工事監督官等の指示により除外されることになります。また、これらを除外した物品であっても、スクラップの総価格に比して処理費用が高い場合も売払に不適な物品として除外されます。(業界では産出者が費用を負担する物品を「逆有償品」といいます。)

現状から、最近では売払に不適な物品となる傾向にあります。つまり、物品の撤去だけでなく国庫に蔵入をもたすことも重要なのです。当課では、当該物品を引継ぐことが妥当と判定した場合、国有財産部局長と物品管理官(又は分任物品管理官、以下「物品管理官等」)の間で発生材引継書を取り交します。このあと検収員は検収調書を、物品管理官等は売払要望書をそれぞれ作成し、スクラップ業者に対して現場説明会を開きます。その概ね1週間後に競争を行い、予定価格を上回る金額の中で最高額を提示した業者と契約を締結することになります。

なお、ここ10年間競争入札に付した事例はなく、予算決算及び会計令第99条第5号に基づく「少額随意契約」がほとんどです。

この業務の特徴は、関わりのある組織が非常に富んでいることで、建設部各課、施設部の施設企画課や施設管理課、総務部の会計課、それに当該物品を保管している施設の担当部門と幅広く亘っています。

単なる処分撤去だけでなく、国庫の増収にも寄与する縁の下の方持ちとして、関係各所の皆様には引き続き当業務に対しご理解ご支援の程、よろしくお願いいたします。

Let's RUN

FOR FUCHI

★大阪局施走会

K

なぜ、世の中の多くの人々が走っているのか考えたことすらなかった私、小さい頃から40歳を過ぎた今日まで走ることが大嫌いで無縁の私であったが、中年太り気味で血圧が高くなったことから、昨年の初夏に一念発起し、昼休みや仕事を終えてから大阪城の周囲を音楽を聴きながらというスタイルでジョギングを始めました。

その結果、血圧は下がりました。これで一応の目標は達成しました。しかし、予期せぬプラスアルファもありました。①風邪をひく回数が激減(医療費も減少) ②ガンガン食

べて、酒をしまだ飲んでいても体重が10kg以上減少(体を使わない費用のかかるダイエットより良いかも) ③脚の形が変わり(小学校の理科室にあった人体模型にほんの少し近づけたかも) ④久々にジーパンを購入 ⑤駅の階段を昇っても平地を歩いているような感覚を初体験(人間の体って機械と違って使えば使うほど進化するものだ実感) ⑥走ると頭の中が空になってリフレッシュ感を得る

⑥一般向けマラソン大会に参加してバテバテの時に、沿道のファンの声援のありがたさを実感(声援があるのに力の源になるとは)

休日、平日を問わず、あるいは街中、田舎を問わず、多くの市民ランナーが走っています。これもランニングは思ったより奥が深く、また、競技者のためだけにあつたものではなく、万人に様々な実益や新しい発見をもたすものであるからだと思うようになりました。

もし、これを読んで興味を持たれた方がおられたら、周りにいる走り好きな人に話を聞いてみるのも良いかもしれません。また専門の月刊誌もいくつか発行されています。個人個人に合ったスタイルで無理なく楽しんで、それが好結果につながれば幸いです。



人事異動

人 事 発 令	氏 名	前 職
平成18年4月1日付け		
○転出		
陸上自衛隊武器学校総務部管理課長	近 藤 順 一	総務部会計課課長補佐(総括)
海上自衛隊徳島航空基地環境保全専門官	原 田 武 彦	事業部業務課総務係長
名古屋支局施設対策第2課住宅防音第3係長	大 東 三 恵	
名古屋支局建設企画課計画調整係長	原 田 睦 美	建設部建築課建築第1係長
熊本支局土木課建設監督官	宇 野 章	建設部土木課土木第3係長
札幌局建設部設備課設備第1係長	高 橋 哲	建設部設備課設備第2係長
○転入		
総務部付	川 戸 博 行	陸上自衛隊富士学校管理部管轄課長
総務部会計課課長補佐(総括)	澤 谷 美喜雄	横浜局総務部会計課課長補佐(総務、会計、管理)
施設部施設企画課調査専門官(兼)施設管理課	松 野 広 行	本庁施設部施設企画課調査専門官
建設部建築課建築第1係長	洪 谷 昌 親	那覇局建設部建築課建築第1係長
建設部土木課土木第3係長	堤 理 仁	
建設部設備課設備第2係長	遠 藤 宰	福岡局建設部設備課設備第3係長
建設部建築課建築第4係長	吉 田 雅 樹	
○局内補職		
総務部総務課課長補佐(総務、企画、審査、企画調整)	福 井 三 郎	総務部総務課課長補佐(総務、企画、審査)
施設部施設管理課課長補佐(台帳)	中 山 健	施設部施設取得課課長補佐(賃借)
施設部施設取得課課長補佐(賃借)	藤 田 正 人	施設部施設取得課課長補佐(取得)
施設部施設取得課課長補佐(取得)	高 橋 忠 男	施設部施設管理課課長補佐(台帳)
事業部施設対策第2課課長補佐(防音1,2)	青 木 建	事業部施設対策第2課課長補佐(防音3)
事業部施設対策第2課課長補佐(防音3)	飯 島 義 雄	事業部施設対策第3課課長補佐(移転)
事業部施設対策第3課課長補佐(移転)	板 東 英 一	事業部施設対策第2課課長補佐(防音1,2)
総務部総務課企画係長	森 本 一 夫	総務部総務課人事係長
総務部総務課企画調整係長(新設)	安 岡 慶 二	施設部施設管理課行政財産管理第1係長
総務部総務課人事係長	保 田 まゆみ	総務部総務課共済係長
総務部総務課共済係長	澤 田 昭 子	総務部総務課厚生係長
総務部総務課厚生係長	貴 島 直 子	総務部会計課出納係長
総務部会計課出納係長	有 田 寛 子	京都事務所業務係長
施設部施設管理課行政財産管理第1係長	藤 田 浩 仁	施設部施設管理課行政財産管理第3係長
施設部施設管理課行政財産管理第3係長	芝 野 健 次	施設部施設補償課漁業補償係長
施設部施設補償課漁業補償係長	粟 津 静 一	施設部施設取得課取得第2係長
施設部施設取得課取得係長(組織改正)	山 元 豊	施設部施設取得課取得第1係長
事業部業務課総務係長	町 田 知 弘	総務部総務課企画係長
事業部施設対策第1課障害防止係長	澤 田 明 宏	事業部施設対策第2課防音第2係長
事業部施設対策第2課防音第1係長	尾 美 誠 治	事業部施設対策第1課障害防止係長
事業部施設対策第2課防音第2係長	葛 谷 象 紀	事業部施設対策第2課防音第3係長
事業部施設対策第2課防音第3係長	中 西 善 朗	事業部施設対策第2課防音第1係長
建設部建設企画課契約管理室契約審査第1係長	上 原 正 樹	建設部建設企画課契約管理室契約審査係長
(組織改正)		
建設部建設企画課契約管理室契約審査第2係長	江 副 浩一郎	建設部建設企画課計画調整第2係長
(組織改正)		
建設部建設企画課計画調整第2係長	高 橋 清 隆	建設部建築課建築第4係長
金沢事務所業務係長	駒 野 光 昭	
京都事務所業務係長	金 田 達 映	金沢事務所業務係長